

# 江戸期の「指示・命令表現」「申し出表現」 等における返答表現について

—『浮世風呂』を中心に—

高澤 信子

## 1 はじめに

これまでの江戸期の研究では、「依頼表現」「誘い表現」「申し出表現」「指示・命令表現」等の表現では、どのような表現を用いて使われていたかに焦点が当てられていた。それらの表現、発言に対してどのような返答がなされていたかについての調査はなされていなかった。そこで本稿では、江戸期の「依頼表現」「申し出表現」「指示・命令表現」等の返答表現を中心に位相の観点からも調査した。

## 2 依頼表現

相手が目上の場合、最も敬語表現を必要とする敬語度の高い表現である。「てくれ(ないか)」「てもらえないか」「てください」「くださいますか」「ていただけますか」「て頂戴」「てほしい」「てもらいたい」「ていただきたい」等がある。『浮世風呂』では、次の表現が見られた。江戸期では、「てくれ」と「くれ」に接頭辞「お」が付いた形「おくれ」が用いられている。「てくれ」より丁寧な表現として「ておくれ」が使われている。

### 『浮世風呂』の「依頼表現」

(1) (依頼) おはるさん。わたしもしんに入れておくれな。(ふゆ)

「アア、おまへもお出(はる)」

(2) (依頼) おん乳母どん、その跡で、わつちの襟を剃ておくれナ(子もり)

「ヘン。あきれらア。襟や顔をすりつけるよりは、小鬢(こびん)先の兀ツちやうでも治すが能。(うば)」

### 「依頼表現のまとめ」

(1) では、「ふゆ」と「はる」は位相の観点から見ると同等の関係にあるので、返答では、受諾においては、「はい」ではなく、「アア」が用いられている。その他の表現においてもすべての表現で、同等の関係では、受諾においては、「はい」ではなく、「アア」または「アイ」が用いられていた。

(2) これまでのコミュニケーション機能表現では、時代が現代に近づくほど間接表現等を多く用いてはっきり拒否しない表現が用いられていたが、江戸期では、はっきりと断る表現が多く用いられていた。

(14)

### 3 誘い表現

「誘い表現」は、「来ませんか」「来てもらえませんか」を丁寧な表現にすると「来ていただけませんか」となる。「～ていただけませんか」は、典型的な依頼表現の一つであるが、「依頼」と「誘い」は関係が深い。「依頼表現」と「誘い表現」を「誰が行動するのか」「誰に決定権があるのか」「誰のためにするのか（行為）」を三つの観点から見て行くと、次のようになる。

「依頼表現」 行動：相手 決定権：相手 誰のためか：自分

「誘い表現」 行動：相手・自分 決定権：相手 誰のためか：相手と自分 となる。

#### 『浮世風呂』の「誘い表現」

(3) (誘い) みんなが私の内へお出でないか。(はる)

「アア、参らう。(なつ)」

#### 「誘い表現のまとめ」

「誘い表現」でも、同等の関係では、返答に「はい」の代わりに「アア」が用いられている。江戸期では「行く」という意味で「参らう」が用いられていた。

### 4 申し出表現

誘い表現の「行きましょう」「行きましょうか」などの文末表現は、「持ちましょう」「持ちましょうか」となると、話し手が相手の利益になる行為を、相手のためにするように申し出る表現をして機能することになる。このように相手のために話し手が何かをすることを表す表現を「申し出表現」と呼ぶ。謙譲表現は、「～いたしましょう」「お～しましょう」となる。意志形「てやろう」、やりもらい表現の「～てあげよう」も用いられる。

#### 『浮世風呂』の「申し出表現」

(4) (申し出) お秋さんお秋さん、こつちへお出。この裁を上やう。(はる)

「アイ、おかたじけよ。(あき)」

(5) (申し出) おかみさんエ。チツトお流し申ませう。(下女おやす)

「アイ、おかたじけ。ヲヤ、おやすどん。けふはお早かつたの。(女房)」

(6) (申し出) 私が汲で上ませう。(やす)

「これはおはばかり、いただきますよ。(女房)」

#### 「申し出表現のまとめ」

「申し出表現」の場合、受諾表現において「アイ、おかたじけ」「おはばかり～」と感謝の言葉を述べている。

### 5 指示・命令表現

指示・命令表現は、ある行為をするように相手に強制する事を述べる表現である。「行動」「決定権」「行為」の三つの観点から述べると次のようになる。

行動：相手 決定権：自分 行為：自分・相手・相手と自分 となる。

「行為」では、述べる内容によって、それが自分のためであったり、相手のためであったり、また、自分と相手の両方のためであったりする。

例（１）：「早く片付けなさい」「部屋を掃除しなさい」

「早く片付けなさい」「部屋を掃除しなさい」という指示・命令表現は、自分の都合に合わせるため、自分のために言う表現である場合もあれば、相手にとってそれが利益になる場合にも用いられる。また、自分と相手の双方にとって利益になる場合も考えられる。

例（２）：健康に注意しろ

こらは、その行為が相手のためであるという表現となる。

他方、「片付けてください」「掃除してください」という指示・命令表現は、「依頼」としての意味も含まれる場合がある。これを「行動」「決定権」「行為」という三つから観点から見ると次のようになる。

行動：相手 決定権：相手 行為：自分 となる。

「行動」に関しては、指示・命令表現と同じく「相手」が行動する点では同じであるが、「決定権」に関しては、「依頼表現」では「相手」であるが、「指示・命令表現」では「自分」である点が異なる。また、「行為」に関して言えば、「依頼表現」では「自分」だけのためであるが、「指示・命令表現」では「自分と相手」となる場合もあるので、この点でも異なりが見られる。

### 『浮世風呂』の「指示・命令表現」

#### 指示・命令表現 [受諾]

(7) (指示) お山さんあつちや向んか。(かみ)

「ながしておくれか。夫(それ)はおはばかりだネ。(山)」

(8) (指示) うそならわつちが内へ来て書付を見なせへ。(山)

「ハア、ちと見よかいナ。(かみ)」

(9) (指示) そんなら、今しがた上た物をお返し。(はる)

「アア、返すよ。こんな穢い(きたない)ものは入らないよ。(にく)」

(10) (指示) モシ、静におつかいなさい。はねがかかりますよ。(そばの人)

「アイ。それだから御免なせへと云ひやす。(した)」

(11) (指示) おあぶなうございますヨ。お静に遊しまし。(よめ)

「アイアイ。(しうとめ)」

(12) (指示) 弥寿(やす)か。どうぞの、爰へ水(おひや)を少しお呉れ。(よめ)

「ハイハイ。(下女おやす)」

(13) (指示) おまへさん、是をお浴遊してお上りあすばせ。(よめ)

「アイアイ、最(も)うあがりましたよ。今日はこなたが能く流して呉たでさつぱりしました。(しうとめ)」

(14) (指示) サア、お這入な。(女房)

「ハイハイ。まア、あなたお先へ。(やす)」

(15) (指示) お角さん、後にお出でな。うたかるたを取て遊びませう。(丸)

「アア参らう。(角)」

(16)

(16) (指示) おかみさんエ。…サアサア、爰へお這入なさいまし。(おいか)

「これはこれにはばかり様。お手をいただきます。これはモウ有がたうございます。(おたこ)」

(17) (指示) サア、お川さん、おめへの背中を出しな。(お山)

「アイ、そんならざつとやらかしておくれ。垢はよらずと能よ。(お川)」

(18) (指示) (初) サアサア、お出し遊ばせ。

「ハイ、さやうならお出し遊ませう。(むす)」

(19) (指示) (商) そんなにびつくりする直(ね) ぢやアねへ。四ツ目へ往てみねへ。(商)

「四ツ目はさうぢやろが、わしが方の相場は斯ぢやによつてト、ヲヲ、八文。(けち)」

(20) (指示) (勝) 精出しねへ。

「アイ。(伝)」

### 指示・命令表現 [拒否]

(21) (指示) サア、かきまはしなさ。(湯くみ)

「いやだよ。誰がかき廻す物か。(ばち)」

(22) (指示) 御当地でいふ髓(すっぽん) じやがな。おまへも食て見い。(かみ)

「ヲヤ、いやよ。おつかねへ。髓(すっぽん) なんざア見るもいや。(山)」

(23) (指示) おはるさん。堪忍してお遊びナ。(なつ)

「わつちは否(いや)。(はる)」

(24) (指示) おむさん、お背中をお出し遊せ。お流し申ませう。(初)

「イイエ、よろしうございます。(むす)」

(25) (指示) そんなことをいはずと、荷の中にあるものでお呼なせへ。(ばんとう)

「ハア、さうかい。ハテナ、じやてて、いろいろな物があるはい。(けち)」

(26) (指示) 四ツ目へ往て見やんせ。(けち)

「ヘン、あきれらア。(商)」

(27) (指示) (けち) 十文に手をうたんせ。

「チヨツ。おめへには売ねへ。(商)」

### 「指示・命令表現のまとめ」

「受諾」では、「流しておくれ」「そんならだつとやらかしておくれ」と指示表現に対して丁寧な依頼表現「ておくれ」を用いて返答している。また、「ちと見よかいナ」「返すよ」と指示に従った表現が用いられている。

「拒否」では、「いやだよ」「いやよ」「わつちは否(いや)」「イイエ」「さうかい」「あきれらあ」「おめへには売らねへ」とはっきりと述べて拒否している。

## 6 分析結果と考察

調査の結果次のことが明らかになった。

(1) 上下関係がある場合の返答では、「ハイ」と答え、同等の場合の返答は、「アイ」を用いて使い分けが行われていた。

- (2) 高澤 (2014) の江戸期から平成期への研究では、平成期に至り現代に近くなるにつれて間接表現を用いることが多くなっていた。江戸期『浮世風呂』では、どの返答もあいまい表現を用いることなく、はっきりと受諾、否定を明らかにしていた。
- (3) 誘い表現でも、同等の関係では、返答に「はい」の代わりに「アア」が用いられている。江戸期では「行く」という意味で「参ろう」が用いられていた。
- (4) 「申し出表現」の場合、受諾表現において「アイ、おかたじけ」「おはばかり～」と感謝の言葉を述べている。
- (5) 「受諾」では、「流しておくれ」「そんならだつとやらかしておくれ」と指示表現に対して丁寧な依頼表現「おくれ」を用いて返答している。また、「ちと見よかいナ」「返すよ」と指示に従った表現が用いられている。
- 「拒否」では、「いやだよ」「いやよ」「わつちは否 (いや)」「イイエ」「さうかい」「あきれらあ」「おめへには売らねへ」とはっきりと述べて拒否している。

今後は、『東海道中膝栗毛』等、会話表現の多い資料を多く用いてより多くのコミュニケーション表現の返答を採取し、分析を行っていきたいと思う。

#### 主要参考文献

- 沖森卓也 (1987) 『日本語史』 おうふう
- 蒲谷宏他 (1998) 『敬語表現』 大修館書店
- 菊地康人 (1997) 『敬語』 講談社
- 小島俊夫 (1998) 『後期江戸ことばの敬語体系』 笠間書院
- 小松寿雄 (1985) 『江戸時代の国語江戸語』 東京堂出版
- 高澤信子 (2014) 『近現代日本語表現の研究 —— コミュニケーション機能表現を中心に ——』 (博士論文未刊)
- 高澤信子 (2016) 『近現代における指示・命令表現について —— 江戸期から平成期へ ——』 立教大学日本学研究所年報 第13号
- 森田良行・松木正恵 (1998) 『日本語表現文型』 明治書院
- 『浮世風呂』 式亭三馬 (1965) 日本古典文学大系 岩波書店 校注中村通夫  
(たかざわのぶこ 公益社団法人 国際日本語普及協会日本語講師 / 立教大学日本学研究所研究員)